

民主化運動記念館(韓国)訪問 「東亜日報を読む会 合本」、あいました 飛田雄一

昨年11月13~16日(2025年)、ソウル訪問。日韓和解と平和プラットフォームの合同運営委員会だ。13日には、「正義記憶連帯35周年支援の夕べあなたの光、希望という未来」に参加した。歌あり踊りありのすてきな集会だった。会場は、ソウル女性プラザ国際会議場(ピュムソウル)。

14日は、プラットフォーム運営委員会。そして、15日、民主化運動記念館を訪ねた。1976年南営洞に建てられた「治安本部対共分室」で、1985年金權泰拷問事件により実態が発覚し、1987年には朴鐘哲拷問致死事件が起きた。1991年に名称が「警察庁保安分室」に変更されている。

建物自体が、過酷な取り調べをするためにつくりられており、それをそのまま利用して記念館が作られた。昨年6月10日、正式開館した。必見の記念館で、戦争記念館の北西にある。地下鉄では、1号線南営洞駅1番出口、4号線淑大入口7番出口、6号線三角地駅10番出口。すぐ北側を鉄道が走っている。当時は、高い壁があって列車から中を見ることができなかつた。

11月14日から16日まで「第1回2025民主・人権映画祭」が開かれているが、時間がなく見ることはできなかつた。「光州ビデオ・消えた4時間」「南営洞1985」「ティリ(全泰壹)」などが上映されている。



M1(常設展示・特別展示)、M2(旧治安本部対共分室)、E(教育棟)がある。M1は「歴史と向き合う低い視線」という意味がこめられたM1は、南営洞対共分室と向かいあつていて。M2は「国家暴力と人権蹂躪、それに対する市民の抵抗を証言してくれる現場である旧南営洞対共分室は過去と未来を繋ぐ空間である。M2ではこれまでに明らかとなつた国家暴力の実態とその現場を様々な展示物やメディアを通して見つめ直す」。

M2のすべての部屋の音/映像を把握できる部屋があった。連行された人が入る特別の入り口があった。突然姿が消える構造になっている。また、螺旋階段があったがそれは、「調査室のある5階としか繋がっていない。目隠しされたまま連れていかれると、何階へ向かっているのかを察することはできなかつた。鉄の階段に響く音は恐怖を増幅させ、円形の階段は空間感覚を失わせた」とい

う。



逮捕されるとこの入口から入れられる(朴俊圭さん) / 空間感覚を失わせる螺旋階段

日本語で案内してくださつたのが朴俊圭さん。以前、兵庫県下の大学に交換教員として留学していた方だ。Facebookの友人でもあった。びっくりした。

「寄贈者の壁」があった。「2001年より民主化運動の史料を寄贈してくれた個人や団体を記録した壁である。延べ768名の寄贈者が名を連ねている。(2024年12月31日現在)」

そこに私の名前があつた。おどろいた。前号のむくげ通信で「東亜日報を読む会 合本」の行方のことを書いた。その合本が、記念館にちゃんと保存されていた。後日、朴俊圭さんが「寄贈者・飛田雄一」リストを送ってくださつた。それが以下。左段の下から二つ目の「東亜日報」以外に、神戸学生青年センター出版部の本などの本がある。うれしいことだ。

そして15日夜、村山俊夫、宮内秋緒、趙正熙、金泰賢、飛田5人で東大門宴会を開いたであります。

